



理科教育の充実と発展を目指して

日本理化学協会会長
東京都立多摩高等学校長 上村礼子



仁井田孝春会長の退任に伴い、令和6年度全国理科教育大会・第95回日本理化学協会総会・東京大会におきまして、新会長に推挙いただきました。本協会の充実と発展のために全力で取り組んで参ります。よろしくお願い申し上げます。

さて、本協会は「高等学校における理科教育の振興を図り、合わせて会員の研修を深めて、資質の向上を図る。また、小学校・中学校・高等学校・大学の連携を密にして、わが国における理科教育の充実発展を目指す。」ことを目的として活動しております。昨年度まで調査部長及び教育課程検討委員会委員長として、皆様のご意見をアンケートで伺って参りました。アンケートは理科教育の現況を調査し、理科教育のさらなる発展を目的として実施しています。調査結果については毎年文部科学省へ出向き報告しております。

調査では、継続して「探究」をテーマとして質問項目を設定しております。生徒の課題研究の実施状況も令和6年度には約5割となっています。調査結果では課題研究や探究活動の指導について参考となるご意見も多くあります。一方で、課題研究の指導体制や指導法について課題を感じている現場の声も少なくないという実態もあります。昨年5月にご逝去された菊池正仁先生が事務局長に就任された際に、「多くの先生方の実践をデータベース化し、先生方に還元していきたい」とメッセージを述べておられました。本協会が所有している全国の先生方の研究成果や教育実践のデータベース化を進めることは、探究の指導法について困難を感じておられる先生方の一助になると考えます。研究成果や教育実践のデータベース化については引き続き進めて参ります。

「初等中等教育の基準等の在り方について」（令和6年12月25日中央教育審議会諮問）では、顕在化している課題として以下が挙げられています。

- ・習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること
- ・概念としての知識の習得や深い意味理解をすること

- ・自分の考えをもち、根拠をもって明確に説明すること
- ・自立的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと

これらは、理科における探究活動の中で育成されることが期待される資質・能力ではないかと考えます。理科における探究の過程は、高等学校学習指導要領平成30年告示解説理科編理数編（文部科学省、平成30年7月）で、自然事象に対する気付き、課題の設定、仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験の実施、結果の処理、考察・推論、表現・伝達、振りかえりという一連の過程が示されています。単元の指導計画により、探究の過程の一部でも取り入れながら、生徒が疑問を感じたことから課題を発見し、課題を解決していく活動を取り入れた指導計画を実践していくことが重要であると考えます。

令和6年12月25日中央教育審議会諮問では、生徒の学習改善や授業改善、教師の力量形成に一層効果的な学習評価の在り方となるよう、評価の観点や頻度、形成的・総括的な評価も含め、評価の在り方の改善についても記述があり、理科として指導と評価の一体化についても一層求められます。

令和7年度は8月7日（木）～9日（土）の3日間、いわて県民情報交流センターで全国理科教育大会岩手大会が開催されます。令和7年度全国理科教育大会第96回日本理化学協会の大会主題は「全ての子供たちの可能性を引き出す理科教育－個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて－」です。「令和の日本型学校教育」で言われている「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」に向けた授業づくりや実験・実習の工夫について研究協議や研究発表が展開されるなかで、理科教育のさらなる充実と発展を目指します。よろしくお願い致します。

また、令和7年5月11日（日）には日本理化学協会創立100周年記念行事と理科教育振興法制定70周年記念行事が開催されます。日本理化学協会は、大正15年5月に嘉納治五郎氏を初代会長として創立し、以来100年の節目を迎えることとなりました。さらに昭和26年の全国理科教育大会の折、理科教育振興法制定に向けて本協会の推進する方向が決まり、多くの教育団体の賛同のもと、昭和28年8月8日に公布されて法律となりました。そして、わが国の理科教育推進に多大な貢献をしている理科教育振興法は、制定公布から70年の歴史を重ねました。両記念行事につきましても、よろしくお願い致します。

令和6年度全国理科教育大会
第95回日本理化学協会総会

東京大会報告

東京大会運営委員長
東京都理化教育研究会会長
東京都立小平南高等学校長 中野清吾



令和6年全国理科教育大会・第95回日本理化学協会総会が、令和6年8月7日～9日の日程で、東京新宿の工学院大学新宿キャンパスをお借りして350名以上の参加者が集い開催されました。東京で

の開催は平成26年以来10年ぶりで、昭和3年5月の第3回総会を皮切りに今回で15回目の開催となります。「15」という完成を意味するにふさわしい大会にすべく準備を重ねて参りました。運営面におきまして大会に参加された方々には色々ご迷惑をおかけしたこともあるかと思いますが、全大会の日程を無事終えることができたことを深く感謝申し上げます。

第1日は8月7日（水）常務理事会、全国理事会に続き「これからの理科教育を考える－個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して－」と題して、文部科学省初等中等教育局教科調査官小林一人氏より文部科学省講話を頂戴し、時に適ったタイムリーな大変参考になる将来を担う若者に対して我々理科教育に携わる者の責務を痛感する講話でありました。その後、研究発表者会議、研究協議会と続きました。

第2日は開会式及び表彰式と総会に続き、「DXの本当の意味は何か。DX実践ラボの取り組み」と題して、工学院大学情報学部情報デザイン学科教授田中久弥氏をお招きして記念講演を頂戴し、デジタルツール等たくさんの方の事を教えてくださり、DX人材の育成には理科教育が必要であるというポジティブな考えを学ぶことができました。その後、科学の広場、実験講習会・ワークショップ、研究協議、5年ぶりの教育懇話会と続きました。

研究協議は、①スペシャリスト育成のための物理教育、②市民としてのリテラシー向上のための物理教育、③スペシャリスト育成のための化学教育、④市民としてのリテラシー向上のための化学教育、⑤市民としてのリテラ

シー向上のための生物教育、⑥スペシャリスト育成のための地学教育、⑦市民としてのリテラシー向上のための地学教育、⑧スペシャリスト育成のためのICT活用、⑨市民としてのリテラシー向上のためのICT活用について、物理・化学・生物・地学・ICT活用の5分野からなる9つの分科会に分かれて、それぞれ活発な議論が展開されました。

第2日終日と第3日午前には科学の広場も開催され、先生方個人・研究会による10タイトル、法人・企業・学会による21タイトルの計31ブースが開設され、多くの皆様がお来場くださいました。また、同会場で新しい試みとして高校生発表の場を設け、同時に韓国の高校生との交流会も行われました。

第2日午後の実験講習会では時間帯で2つのグループに分け、物理分野4題、化学分野5題、地学分野4題の計13題の実験が紹介されました。

第3日午前の研究発表は物理分野3会場21件、化学分野5会場31件、生物・地学・実験・実習分野の1会場2件、合計9会場54件の発表があり、助言者講評・閉会式と続きました。

第3日午後からは自由参加のコース別研修が行われました。A国立天文台コース、B水素エネルギーを巡る東京水素ミルコース、Cテクノロジーを感じる日本科学未来館コース、D国立科学博物館コース、E国立極地研究所コース、F神田川流域と戸山公園付近の地形を巡るコースの6つのコースに分かれてそれぞれ移動し、講演・体験・見学・巡検等を行い、貴重な研鑽を深めることができました。

上記それぞれの詳細は会誌第95巻第2号に掲載されておりますので是非ご覧ください。

東京大会では「持続可能な社会の担い手を育む理科教育－生徒の創造的な探究・挑戦・協働を通して－」を大会主題とし、現行学習指導要領施行3年目の節目の開催でもあり、東京都理化教育研究会一同にとって貴重な経験をさせていただきました。改めて感謝申し上げます。

最後に、令和7年は日本理化学協会創立100周年・理振法制定70周年を迎えますが、東京都理化教育研究会は大正15年に創立されてから令和8年に100周年を迎えますことをご紹介します、ご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

令和7年度全国理科教育大会
第96回日本理化学協会総会
岩手大会のお知らせ

岩手大会運営委員長
岩手県高等学校教育研究会理科部会長
岩手県立北上翔南高等学校長 千葉 勝 幸



平成9年の第68回大会「イーハトーブ・夢・銀河－理科教育の理想を求めて－」以来、28年ぶりとなる岩手県大会開催に向けて準備を進めているところです。今回は「全ての子供たちの可能性を引き出す理科教育－個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて－」をテーマに研究協議を設定しているところです。

日本が世界の模範となるようにサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会「Society 5.0」が提案され、その実現に向けて学習指導要領が実施されているところです。その代表として「探究的な学習」等は、「理科教育」で培ってきた「実験」のサイクルを反映していると受け止めているところです。

さて、岩手大会で主会場となるアイーナ（岩手県民情報交流センター）はJR「盛岡駅」西口より徒歩3分に位置しています。盛岡市については、アメリカのThe New York Times（ニューヨーク・タイムズ）が「52 Places to Go in 2023（2023年に行くべき52か所）」を発表し、イギリスの首都ロンドンに続く2番目として話題になりました。「歩いて回れる宝石的スポット」、新幹線で東京から数時間で行ける便利さ、大正時代に建てられた和洋折衷の建築美の建造物、盛岡城跡公園、「NAGASAWA COFFEE」「東家」「BOOKNERD」「開運橋のジョニー」などが紹介されました。更なる岩手の魅力を発信すべくコース別研修では、M9.0を記録した東北地方太平洋沖地震をテーマとした「岩手の地形の体験」コース、ブラックホールの映像化に寄与した電波望遠鏡を有する観測所及び中尊寺金色堂をテーマとした「銀河と世界遺産平泉」コース、宮沢賢治の詩で「鬼の棲みか」と

表現された溶岩流の跡地と小岩井農場をテーマとした「岩手山と農林畜産業」コースが設定されております。北東北に位置する岩手ですが、8月の時期は「涼」といえない「暑」を感じる事が予想されますが、全国の先生方のお越しを心よりお待ちしております。

1 大会主題

「全ての子供たちの可能性を引き出す理科教育」
－個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて－

2 開催日時

令和7年8月7日（木）～8月9日（土）
※コース別研修Aは10日（日）まで

3 会場

アイーナ（いわて県民情報交流センター）

4 日程（予定）

第1日 8月7日（木）

12:00～12:50 常務理事会

13:30～14:30 全国理事会

14:30～15:30 文部科学省講話

15:30～16:50 研究代表者会議および研究協議会

第2日 8月8日（金）

9:15～10:05 開会式

10:05～11:00 総会

11:00～12:30 記念講演

国立天文台水沢VLB I観測所
所長・教授 本間希樹氏

12:30～13:00 写真撮影

* 9:30～16:45 科学の広場

14:15～16:45 研究協議

（本大会は、教育懇話会を実施いたしません）

第3日 8月9日（土）

9:00～11:45 研究発表

12:00～ コース別研修

5 大会事務局

岩手県立北上翔南高等学校 教諭 佐藤浩之
〒020-0835 岩手県北上市相去町高前楯13
TEL 0197-71-2122 FAX 0197-71-2160
E-mail:ptf2-satou-hiroyuki@iwate-ed.jp

令和6年度 調査部・教育課程検討委員会合同アンケート概要

調査部部长
東京都立八王子東高等学校長 佐藤 聖一
教育課程検討委員会委員長
東京都立神代高等学校副校長 室岡 誠一

【概要】日本理化学協会調査部・教育課程検討委員会では、令和6年6月に全国の理科教員を対象とした探究に関する調査を実施しました。本概要は、全国の理科教員の意見を今後の高等学校の理科教育の改善の方向性に反映させていくことを目的として、アンケート結果を基に作成しました。令和6年度は「探究」「人材育成」「遠隔授業」「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」「生成AIの活用」の5つのテーマでした。課題として「探究活動に関する人材育成」、「ICT活用のための環境整備」、「理科機器の充実」、「教員定数」が挙げられました。

I. はじめに

創設されて100年を迎える日本理化学協会は、45都道府県が加入している高等学校の理科の教員の組織です。日本理化学協会の活動の目的は、高等学校における理科教育の振興を図り、合わせて会員の研修を深めて、資質の向上を図ることとしています。また、小学校・中学校・高等学校・大学の連携を密にして、理科教育の充実発展を目指しています。

そこで、日本理化学協会調査部では理科に関する調査を行い、その結果を毎年8月に開催される全国理科教育大会で報告しています。日本理化学協会調査部では探究に関する調査を継続して実施してきました。そこで、全国の理科教員の意見を今後の高等学校の理科教育の改善の方向性に反映させていくことを目的として、アンケート結果を基に本概要を作成しました。

II. 調査の方法

1. 期間と対象

調査期間は令和6年6月15日から7月16日で、高等学校理科教員288名からの回答が得られました。

表1 回答者の専門科目ごとの人数と割合 N=288

| 科目 | 人 | 割合 (%) |
|-----|-----|--------|
| 物理 | 77 | 26.7 |
| 化学 | 139 | 48.3 |
| 生物 | 57 | 19.8 |
| 地学 | 10 | 3.5 |
| その他 | 5 | 1.7 |
| 合計 | 288 | 100 |

2. 質問項目について

質問項目は、勤務校、回答者自身、テーマ、教育課程に関する内容で構成した。表2に質問項目を示します。

表2 質問項目の概要

| 主な質問項目 | 数 |
|---|---|
| 【勤務校】都道府県名, 設置者, 学校名, クラス数, スーパーサイエンスハイスクール (SSH) の状況, DXハイスクールの状況, 大学進学率 | 9 |
| 【回答者自身】専門科目, 年齢, 教員歴 | 3 |
| 【探究】実施状況, 課題の設定の過程での状況, 困難に感じていること, 心がけていること等 | 9 |
| 【人材育成】校外の研修会への参加の状況, 必要内容, 研修を受けてみたい単元, 人材育成の機会等 | 5 |
| 【遠隔授業】遠隔授業の状況, 必要な要素 | 2 |
| 【個別最適な学びと, 協働的な学びの実現】必要な環境 | 1 |
| 【生成AIの活用】活用への意識, 活用場面, 利点, 期待されること, 活用のルールなど | 6 |
| 【教育課程】各課程の探究活動の実施状況, 週あたりの実施時間数, 受け持つ生徒の人数等 | 9 |

なお、質問項目については、高等学校の理科教諭である調査部の筆頭著者及び委員19名で検討しました。

3. 調査の方法

日本理化学協会に所属する全国45都道府県の各支部長に、事務局からメールにてアンケートへの協力の依頼を行いました。また、アンケートはMicrosoft 365 Formsを用いて実施しました。

III. 結果

1. 探究

20「理科の授業での「探究活動」の要素（探究の過程）についてお答えください」（複数回答可）という質問項目で全回答数（N=288以下同じ）に対する肯定的な回答の割合は、「③生徒に予想させる」83.0%、「①生徒に疑問を感じさせる」82.3%となっており、「⑥生徒に実験計画を立てさせている」28.8%、「⑦生徒が立てた計画で実験させている」25.7%となっていました。

24「理科における「探究活動」や「課題研究」などの探究学習において課題の設定や問い（Research Question）の設定の過程で行っているものをお答えください」（複数回答可）という質問項目で全回答数に対する割合は、「①自然事象の観察や実験の結果から予測をさせている」62.2%、「④疑問に感じることを整理する活動を取り入れている」43.1%となっていました。

26「理科における「探究活動」や「課題研究」などの探究学習において課題の設定や問い（Research Question）の設定の過程で困難に感じていることについて具体的に「ご記入ください」という質問項目で自由記述を分類したところ、全回答数に対する割合が「生徒の知識・技能」30.6%、「問いの設定の指導法」23.8%、「時間」19.7%となっていました。

2. 人材育成

28「校外の研修会への参加の状況についてお答えください。」という質問項目で全回答数に対する割合は、「①年1～2回」44.1%、「②年3～5回」14.2%となっており、「⑤参加していない」という回答が33.0%でした。

29「理科の教員対象の研修ではどのような内容が必要か当てはまるものを全てお選びください」（複数回答可）という質問項目で全回答数に対する割合は、「③探究活動、探究的な指導」62.5%、「⑥生徒実験の指導技術」56.3%、「②指導の方法（指導計画）」48.6%、「⑦演示実験の実験技術」45.8%となっていました。

31「教えるに、または研修を受けてみたい具体的な単元名をご記入ください」という質問項目で、物理では「光の干渉」「内部エネルギー」、化学では「熱化学」「化学平衡」、生物では「分子生物学」「生態学」、地学では「気象」という回答が多くなっていました。

32「教員の人材育成の機会として、現在どのようなものを活用していますか。当てはまるものを全てお選びください」（複数回答可）という質問項目で全回答数に対する割合は、「⑦自分で情報を収集して学ぶ」60.4%、「①校内研修」47.9%、「③都道府県主催の研修」41.0%となっていました。

3. 遠隔授業

35「理科における遠隔授業の実施に必要な要素として考えられることについてお答えください。当てはまるものを全てお選びください」（複数回答可）という質問項目で全回答数に対する割合は、「③施設・設備」76.7%、「②準備の時間」72.9%、「⑥教員が生徒にICT機器の指導を行うスキル」62.8%となっていました。

4. 個別最適な学びと、協働的な学びの実現

37「理科における個別最適な学びと、協働的な学びを実施する上で、必要な環境は何ですか。当てはまるものを全てお書きください」（複数回答可）という質問項目で全回答数に対する割合は、「④Wi-Fi環境」77.4%、「②生徒一人1台のタブレット（個人所有・学校所

有問わず）」56.3%、「⑩少人数での指導」53.8%、「⑥クラウドにデータを上げ、教員と生徒で共有できる環境」53.1%、「⑦プロジェクターやスクリーン、マイク設備等のプレゼンテーションができる環境」50.7%となっていました。

5. 生成AIの活用

41「今後、「生成AI」を活用する場面として考えられることについて当てはまるものをすべてお書きください」（複数回答可）という質問項目で全回答数に対する割合は、「①テキスト作成」69.8%、「②記述文章の評価」57.6%となっていました。

IV. 考 察

アンケートの結果から、以下が明らかになりました。

- ・「探究活動に関する人材育成」、「ICT活用のための環境整備」、「理科機器の充実」、「教員定数」が課題として挙げられました。
- ・令和5年度のアンケート結果から、課題の設定場面が困難であるということが示されていました。そこで、令和6年度はさらに課題の設定や問いの設定の過程で困難に感じていることについて質問項目を設定したところ、「問いの設定の指導法」が高い割合となりました。研修で受けた内容が「探究活動、探究的な指導」が6割を超えていることから、探究に関する研修が求められていることが示唆されました。一方で研修に参加していない教員が3割を超えていることが示されました。
- ・教員の指導力の向上のためには、探究に関する校外の研修に参加することが考えられるが時間の確保に課題があり、校内で経験者や校内研修から学ぶことが最も有効であるという回答がおよそ5割となっていました。

V. 今後の課題

本調査から、課題研究や探究活動を進める教員の人材育成、ICTの施設・設備の充実が課題と感じている教員の割合が高くなっていることが明らかになりました。探究活動の充実のためには、準備の時間、教員定数、研修体制の充実が重要な要素となっています。今後、教員同士の実践的な情報共有の機会も期待されます。令和6年度の調査部・教育課程検討委員会合同アンケートの結果は、日本理化学協会ホームページに掲載しています。

日本理化学協会の周年記念会について

日本理化学協会創立100周年記念会
実行委員長 赤石定治
(日本理化学協会顧問)



令和7年5月11日(日)、日本科学未来館7階未来館ホールにて、日本理化学協会創立100周年の記念行事が開催されます。

しかし、昨年5月、この創立100周年の記念行事を熱く語られていた

前準備委員会委員長の菊池正仁先生が急逝されました。悲しみと戸惑いのなか、残された日本理化学協会の本部役員で、急遽、新たな準備委員会を立ち上げて準備を始めました。そして、昨年同月、私が日本理化学協会創立100周年記念会実行委員長の大任を仰せつかりました。責任の重さに身の引き締まる思いです。

最初に、前準備委員会へのご質問やご依頼、また前準備委員会からのお願いなど、あったであろうことを引き継ぐことが出来ず、ご不快な思いをおかけすることに対し、この場をお借りして、謹んでお詫び申し上げます。

さて、そもそも日本理化学協会の周年行事はどのような形で今まで行われていたのか。

日本理化学協会の周年行事についてはまず、昭和61年8月「日本理化学協会創設60周年記念誌」の小冊子の発行があります。次に、平成8年8月東京大会の「平成8年度全国理科教育大会」並びに「第67回日本理化学協会総会」の開会式の中での「日本理化学協会創立70周年記念大会」開催があります。分かる範囲で2回のみで、単独開催での周年行事は今回の100周年が初めてです。

それでは、なぜ100周年記念会を初めての単独開催にすることとして、前準備委員会が立ち上げられたのか。

令和5年5月頃の前準備委員会メモ「日本理化学協会創立百周年行事について」から、前準備委員会の思いを引き継ぎ、100周年記念会を進めていきます。

大正7年、文部省から「理化学教授改善のために生徒実験の重視と独創的精神を涵養すること」という訓令が出され、明治44年の旧制中学の理科週時数が博物8時間、物理化学8時間だったのが、大正8年の改訂で博物8時間、物理化学10時間と増加されました。

このことは、理科教育に関わる人々の意欲を大いに高

める状況をもたらしました。一方、大正10年には当時の中等学校教育の振興を目指した大日本中等教育会が結成され、会長嘉納治五郎氏を中心に多くの有識者及び中学校長が中等教育の充実を期して活動を進めていました。また、大正初期から物理化学教育に熱意を持った教員有志が東京府中等学校理化学教育研究会を組織し、公立・私立の組織を一体化させ、全国の組織とも連携しようとしていました。そのような中、大正15年5月に大阪市で「電気大博覧会」が開催される機会をとらえ、東京の研究会は大阪府理化教育研究会とはかり、大正15年5月6、7、8日の三日間にわたり、大阪府立清水谷高等女学校講堂で中等学校理科教員の大会を開催しました。

この大会は大日本中等教育会と大阪府中等教育物理学会共催で、大会名を「全国中等学校理化学教員協議会」と称し、日本理化学協会の第一回の大会となりました。

このことから、「令和7年5月は会発足から100年目に当たり、100周年記念会を開催するにふさわしいと考えられ、令和7年5月11日(日)に創立100周年記念会を開催することとしました」と、前準備委員会メモに会発祥と記念会開催について述べられていました。

さらに、もともとこの会が東京だけでなく兵庫・大阪・京都・福岡はじめ全国の先生方の協力によってできてきた会であることを若い先生方にも理解していただき、100周年の成功はもとより、これからの日本理化学協会が全国の先生方の理科教育推進の会として新たな理科教育を牽引していく全国的な組織としてさらに発展していくことを願ってのもの、というこの強い思いを引き継ぎ、日本理化学協会創立100周年記念会を行います。

記念行事次第

日本理化学協会創立100周年記念行事(午前の部)

- 10:00～ 受付
- 10:30～11:10 開会(開会の辞・国歌斉唱・式辞・祝辞・来賓紹介)
- 11:10～11:30 百周年の歩み
- 11:30～11:50 感謝状贈呈及び挨拶
- 11:50～12:00 閉会
- 昼食 12:00～13:00

理科教育振興法制定70周年記念行事(午後の部)

- 13:00～ 受付

(以下別途参照)

理科教育振興法制定70周年記念会について

理科教育振興法制定70周年記念会
実行委員長 上村 礼子
(日本理化学協会会長)

理科教育振興法制定70周年記念式典が下記のとおり開催されます。

日時 令和7年5月11日(日)午後1時30分

場所 日本科学未来館7階未来館ホール

(〒135-0064 東京都江東区青海二丁目3番6号)

理科教育振興法制定70周年記念会 会長 清原洋一

式次第(予定)

- ①開式の辞
- ②国歌斉唱
- ③式 辞
清原洋一 理科教育振興法制定70周年記念会会長
- ④祝 辞
大臣(文科省)・東京都教育委員会・理振協会
- ⑤来賓紹介
- ⑥記念講演 講師 藤嶋 昭 先生
- ⑦感謝状贈呈
- ⑧閉式の辞

同日午前中に、日本理化学協会創立100周年記念式典も開催されます。

さて、理科教育振興法の成立による我が国の理科・数学教育の充実・発展は、戦後の荒廃から現在の繁栄をもたらした大きな原動力となりました。理科教育振興法制定への動きは、昭和26年10月に弘前市で行われた日本理化学協会総会で提案されたことから始まりました。敗戦という未曾有の大きな戦禍から立ち上がるためには、何よりも産業を再興し、国民生活の水準を高めることが必要でした。そのため、「理科教育を通じて、科学的な知識、技能及び態度を習得させるとともに、工夫創造の能力を養い、もって日常生活を合理的に営み、且つ、わが国の発展に貢献しうる有為な国民を育成するため、理科教育の振興を図ることを目的とする(第1条)」として理科教育振興法が制定されました。この法律は、学校現場の理科教師が、理科教育が充実することの必要性を痛感して理科教育振興法制定の運動に立ち上がり、理解ある多数の国会議員のご努力によって議員立法の形で成立

したものです。その後、昭和32年3月に私立学校が法の対象となり、昭和47年に算数・数学も補助対象教科に含めるという改正が行われました(理科教育振興法制定60周年記念事業趣意書)。

資源の乏しい我が国において厳しい国際競争の中にあっても豊かで充実した国民生活を維持していくためには、科学技術の振興・充実が極めて重要な国の施策です。そこで、この法律では、都道府県や市区町村又は学校法人が設立する小・中・高等学校等において、理科、算数・数学の教育に必要な設備を整備するために必要な経費を国が補助する制度を定めています。(公益社団法人日本理科教育振興協会ホームページ)。

この理科教育振興法の成立実施によって、小、中、高等学校の理科教育の施設・設備の充実が図られ、理数指導の工夫改善への取り組みが進み、その結果、児童・生徒の科学への志向を高めることができました。世界における自然科学及び技術の進歩は大きなものでしたが、日本においても科学技術立国として敗戦後の大きな躍進を遂げ、世界を牽引する分野も見られるなど大きく発展して参りました。

一方、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまで以上に高まっている現在の状況下、これからの我が国を担う子供たちには、ますます予測ができない、激しい変化が止まることがない社会をたくましく生きていくことが求められます。グローバル化とデジタル化の進展の中、子供たちが科学的な分野に興味・関心をもち、科学技術を担う人材を育成する必要性が高まっています(中央教育審議会諮問 令和6年12月25日)。

理科教育振興法が制定されて70年を経た今、当時ご尽力くださった方々のご功績に対して敬意を表し、理科教育振興法制定の精神やその恩恵を改めて認識するとともに継承していくことが、記念会の開催で期待されます。現在、全国小学校理科研究協議会、全国中学校理科教育研究会、日本生物教育会、日本地学教育学会、公益社団法人日本数学教育学会などの共催団体とともに日本理化学協会がとりまとめを行い、実行委員会を立ち上げて準備を進めています。

70周年という記念すべき年に当たり、本法の趣旨が生かされ、今後も理科教育が一層充実・発展することを期し、記念行事を挙げてまいります。理科教育振興に関する情報や記念行事に関するお知らせは、本協会ホームページをご覧ください。

事務局だより

日本理化学協会事務局長 富岡康夫



中山雄一先生を悼む

令和7年1月8日、中山雄一先生が逝去されました。先生は平成11年8月茨城大会より平成19年8月長野大会まで9年間協会事務局長、その後顧問を歴任されました。

平成6年5月11日に逝去された菊池正仁先生が当時の会長で、その後に私が会長の折、事務局長として日本理化学協会を支えていただきました。中山先生との一番の思い出は、平成16年1月17日（土）日本科学未来館での理科教育振興法制定50周年記念式典です。当時の皇太子殿下、現天皇陛下のご来臨を仰ぎましたが、中山先生は直接宮内庁に出向き3年前より粘り強くお願いを行われました。東京駅近くの庁舎で文部省の丸山洋司様と中山先生と私の3人で式典の細部を検討したことを思い出します。白川英樹先生をお慕いし、ノーベル賞受賞後に式典で講話をされたことも中山先生のご努力で実現しました。また、平成11年の茨城大会は現職の有馬朗人文部大臣から直接祝辞を述べていただきましたが、中山先生からのお願いで実現したと思っています。このような実行力のある姿は今でも様々な場面で思い出されます。1月18日の告別式に感謝状と理科教育振興法制定50周年記念式典で来賓紹介をされているお姿の写真を供えさせていただきました。協会の教育情報委員会永露浩明委員長から、中山先生と共に力を合わせて現在のホームページを作成したことを聞き、なつかしく思いました。ご冥福をお祈りいたします。

東京大会のお礼

令和6年度全国理科教育大会、第95回日本理化学協会総会は8月7日（水）、8日（木）、9日（金）の日程で工学院大学新宿キャンパスを会場として実施され、全国から356名の会員皆様の参加により成功裏に終わりました。会の運営にあたりました東京都理化教育研究会中野清吾会長をはじめ会員の皆様の献身的なお力添えに感謝いたします。我が国の高等学校の理科教育は、全国の日本理化学協会会員の皆様による思いで支えられていることを実感しました。

日本理化学協会創立100周年式典と
理科教育振興法制定70周年記念式典の準備について
会合等の様子を日程順に一部紹介いたします。

- 9月22日 日本科学未来館下見
- 10月4日 文部科学省教育課程課に今までの状況を報告
- 10月13日 準備委員会会合
- 10月23日 東京応化工業研究助成表彰式（神奈川 サイエンスパーク）で講演講師の藤嶋昭先生と面談
- 11月9日 日本科学未来館下見
- 11月19日 準備委員会会合
- 12月14日 準備実行委員会会合
- 12月18日 広報編集部海老澤先生 事務局で資料発掘準備委員会Zoom会議
- 12月20日 準備委員会会合
- 12月24日 文部科学省教育課程課に今までの状況を報告
- 1月5日 日本科学未来館下見
- 1月15日 準備委員会会合
- 1月23日 文部科学省教育課程課に今までの状況を報告
- 1月28日 文部科学省後援名義申請

■課題研究での研究倫理でAPRINと懇談

12月4日 現在高等学校では総合的な探究の時間で課題研究が実施されていますが、2016年4月1日に設立された一般財団法人公正研究推進協会（APRIN, Association for the Promotion of Research Integrity）は、わが国の研究者、その途上の者、そして研究支援の立場の者への研究倫理教材の提供を実施し、特にSSH校の研究活動を支援したいとの話が出ました。

■放射線教育コンテスト

12月27日 日本科学技術振興財団による放射線教育コンテストの作品発表会に出席し、特別賞の日本理化学協会賞を広島国際大学の学生と栃木県立大田原高等学校に授与しました。

■令和4年度北海道大会日本理化学協会賞受賞の研究がNHK歴史探偵で放映予定

埼玉県立熊谷西高等学校柿沼孝司先生、日本薬科大学教授野沢直美先生（元埼玉県立高等学校校長）が受賞した研究『戦国・江戸時代に学ぶ「古土法」による硝石作りー硝石製造法の歴史的意義について考えるー』がNHKで放映されるとの情報です。2月26日午後10時頃の放映予定です。

広報編集部 編集委員

○塩崎 智之 海老澤貞行 三池田 修 森田 有宏
小林 寛和 金田 和久 小坂美貴子